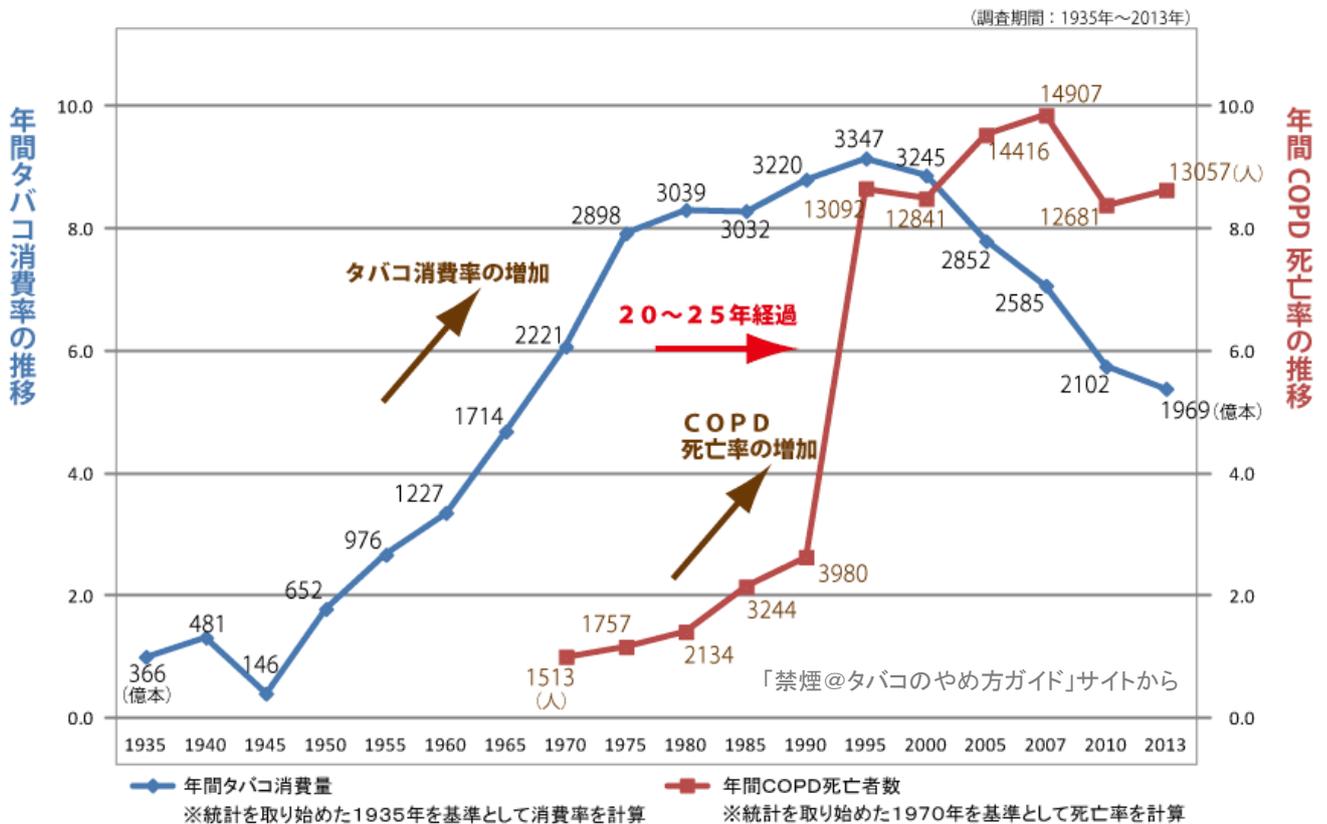


週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると様々な病気になる確率が高くなることは、繰り返し紹介してきました。その中のひとつにCOPD(慢性閉塞性肺疾患)という病気があります。痛みなど自覚症状がでないまま、タバコで肺が冒され本人が気付かないうちに呼吸機能が低下し、やがて自分の力で息ができなくなってしまう病気です。階段の上り降りや運動した際に息切れがひどくなったりする兆行が現れますが、普段の生活に支障がでないからと放置し、タバコを吸い続けていると命を失う最悪の事態を招きます。

タバコ消費量とCOPD死亡者数の推移



上の図はCOPDがタバコと関係している事を示しています。今から40年前にはCOPDの死亡者は1513人だったのに、現在はその約10倍にあたる1万3000～1万4000人も人が亡くなっています。この傾向は、タバコの消費が366億本から10倍の3300億本まで増えたのと連動していることがはっきりわかりますよね。そしてまた、このグラフは20～25年もタバコを吸い続けると、こんなに多くの人の命が奪われていることも示しています。

たった1本や2本のタバコに火を付けた時、その後20年、30年と吸い続け、やがて命を縮めてしまう事になるなどと考えた喫煙者はいないでしょう。でも、この事実を知った君たちは、タバコに火をつける必要がないと思えるはずです。

産業デザイン科 奥田 恭久